

Committed to the development of the profession of sign language interpreting worldwide

目次：

WASLI ニュース	1
朝鮮手話講座	3
フィリピン手話通訳事情	5, 6
ESOSLI 会議	6, 7
フィンランド手話通訳者養成	8

WASLI ニュース:

WASLI は 2015 年開催の大会での発言者を募集します。[こちら](#)をご覧ください。

大会は 2015 年 7 月 22 日～25 日にトルコのイスタンブールで開催されますので、今から計画を立てておいてください。

今回のテーマは、「人権：通訳者の立場」です。

WASLI の Youtube チャンネルに登録を、または[ウェブサイト](#)で更新を。



会長からの重要なお知らせ:

手話通訳者協会のみなさまへ:

WASLI ヨーロッパ地域の代表の推薦にご協力ください。国会員はこの役職に任意の人を推薦でき、この推薦は 2012 年 12 月 15 日まで有効です。

選出された人は WASLI の会議の範囲内でヨーロッパの通訳者の意見を述べ、他地域の課題を共有し、WASLI の目的全般にわたって支援します。WASLI と WFD は、国連での事業が行われる際、能力のある国際手話通訳者を選ぶ方法を決定する役割を担う機関の規約を決定しました。ヨーロッパからの地域代表は国際手話通訳者がヨーロッパで頻繁に業務を行うため、極めて有用となります。また、2015 年にはトルコで WASLI の大会を予定していますが、これに関しても計画を立てるための支援をしてもらうことになります。推薦は英語か国際手話で president@wasli.org まで。

会長 デブラ・ラッセル



最新情報はこちらから

[Facebook](#), [Twitter](#)

または WASLI の HP へ

www.wasli.org

WASLI地域割の修正

WASLI の規約によると、以下の地域でそれぞれの代表が指定されることになっています：アフリカ、アジア、南洋州とオセアニア、バルカン、ヨーロッパ、北米、ラテンアメリカ、ロシア・コーカサス・中央アジア。

ロシア・コーカサス・中央アジア地域は、旧ソ連のアルメニア、アゼルバイジャン、ベラルーシ、グルジア、カザフスタン、キルギスタン、ロシア、タジキスタン、トルクメニスタン、ウズベキスタンとウクライナを含みます。

2011年10月のWFDの東欧・中央アジア地域事務局会議で、WASLI 理事の検討について会員から2件の提案が行われました。

- 1 モルドバがウクライナとベラルーシとともに、ヨーロッパ地域から、宗教的にまた地域的に近い地域に移る（モルドバも旧ソ連の地域であり、北、南、東の国境をウクライナと接している）
- 2 ロシアの提案は、ロシア・コーカサス・中央アジア地域を、東ヨーロッパおよび中央アジアと名称変更するというもので、根拠はいくつかの国や地域は地理的に東ヨーロッパ地域に位置しているというもの（ウクライナ、ベラルーシ、モルドバ、ロシアのヨーロッパ地域）。

2006年の WASLI 規約の第7章「委員会」の第2項「地域」によれば、「WASLI は会員の承認のもと理事会が決定した地域に分ける」となっています。基本的には承認は WASLI 総会でされるべきですが、これは3年間は開催されません。しかしながら、理事会は提案を WASLI の国会員に提案し、会議が開催されない年には電子投票に付することも可能である。

WASLI 理事の意見

WFD 東欧・中央アジア地域事務局会議での提案は WASLI 理事会に提出されました。WASLI 会員は提案に肯定的で以下の見解を表明しています。

- 1 ロシア・コーカサス・中央アジア地域を東ヨーロッパおよび中央アジアと名称変更することに賛成である。
- 2 モルドバがヨーロッパ地域から、名称変更された東ヨーロッパおよび中央アジア地域に移行することに賛成である。

この2点は2013年に国会員により投票が行われる。

イゴール・ボンダレンコ（WASLI ロシア・コーカサス・中央アジア地域代表）



イゴール・ボンダレンコ

右: 現在の地域図
モルドバを強調表示してある



2011年 朝鮮民主主義人民共和国で朝鮮手話講座を開催

WASLI 前会長のリズ・ギブソン氏が2010年7月に共和国を訪問して以来、朝鮮障害者保護同盟（KFPD）と TOGETHER - Hamhung（訳注：ろう児盲児健常児のための教育センター）は共和国内の朝鮮手話通訳者の職業の発展に専心してきました。その結果、朝鮮手話通訳者の養成、全国朝鮮手話通訳センターと地方センターの設立、朝鮮手話通訳者協会の設立をみました。朝鮮手話の通訳事情は聾コミュニティと深く関わりながら同時に発展してきました。朝鮮ろう連盟の設立と国内での聾教育の前進は特筆すべきです。



2005年の手話辞典の発行と法的に朝鮮手話が認知されたこと（障害者保護法、2003年6月18日採択）で政府と関係機関は朝鮮手話に対して関心を深めました。2010年に始まった朝鮮障害者保護同盟（KFPD）と WASLI の協力には大いに評価がなされています。2011年には国内8校ある聾学校以外で、初めて、4つの朝鮮手話講座が開催されました。

KFPD は、この4つの講座に将来朝鮮手話を用いて会話ができる技術を習得するよう参加者を支援するため聾者が参加したことを確認しました。NAUWU は “Nothing About Us Without Us”（私たちのことを、私たち抜きに決めないで）の略字です。このおかげで講座が生き生きしたものとなり、学習する聴者への励ましとなりました。



この4つの養成講座の目的は以下の通りです。

- 障害者機関と政府組織の職員が朝鮮手話の体系とその応用について理解できることと、朝鮮手話を使用して聾者と初歩段階の会話ができること
- 日常のコミュニケーションを容易にするためにろう者の家族や周りの人たちに朝鮮手話を教えること、また、楽しく会話に参加したいという気持ちを起こさせること
- 朝鮮手話の方言研究の基盤をつくり当面方言を活かしながら標準手話を広めること

WASLIはKFPDに講座について祝辞を送り協働継続の意思を表明しました。

最初の2つの講座の閉会行事は2011年3月30日に行われました。参加証明書がイギリス大使から全ての学習者と共和国に発行されました（KFPDは共和国から講座運営の財政支援を受けています）。大使は、この事業が成功裏に進んだことに対して賛辞を述べ、この朝鮮手話の事業が引き続き行われるよう促しました。大使の発言は、KFPDの通訳者により、英語から直接朝鮮手話に翻訳されました。

KFPDは、イギリス大使館、共和国、TOGETHER - Hamhungに、講座の技術面また財政面での支援に対して深く敬意を表しました。KFPDはまた、国際機関であるWFDとWASLIそして世界中の聾者の国内組織と連携を強める決意を表明しました。



力は私たちの手に

ネムズ・ヒューレ・アビデイ
フィリピン手話通訳者協会

すべてのフィリピンの手話通訳者の、ひとつの機関として統一され世界に認められたいという夢が、2011年5月21日フィリピン手話通訳者協会の(PNASLI)創設によって実現しました。この試みはろう者の向上のための通訳者協会(PAIDE)会長のアルフレッド・D・チェラーダ Jr.氏による指揮のもと、国内のすべての手話通訳者が力を合わせた成果です。チェラーダ氏をはじめとし、メイ・アンドラーダ、マイケル・ポティアン、ナティビダード・ナティビダード、レンベルト・エスポーサ Jr.、ロサーナ・ピラヌエバの各氏がPNASLIの設立の先頭に立ちました。会議が開催され、役員選挙の結果チェラーダ氏が初代PNASLI会長に選ばれました。



PNASLIは手話通訳者とろうリレー通訳者(Deaf relay interpreters)の国内統一組織でフィリピン各地からの会員で構成されています。PNASLIの目的は、国内の手話通訳者の専門職化を促進し、質の高い通訳を通して聾者が情報やサービスに十分にアクセスできることを保証することにあります。その役割は、手話通訳者と利用者間の最大の利益という点での国内における手話通訳職の最高の水準を高めることにあります。

通訳者はPNASLI倫理規定を遵守しつつ最高の水準を求めます。それは職業意識、反差別、正確さ、誠実さ、忠誠性、公平性、守秘義務、規律、思慮深さと知識、技能(絶え間ない学習)である。



2012年5月19日、2年目を迎えた PNASLI は大会を開き役員の改選しました。大会のテーマは「レベルを上げよう！フィリピンの手話通訳者の職業意識を次のレベルに」。手話通訳者、聾・聴の会員および役員が参加しました。チェラーダ氏が PNASLI の2期目の会長となり、新たな役員も選ばれました。新たな役員は以下の通りです：マリー・テレーゼ・ブストス、ナティビダード・ナティビダード、ジョン・サンダー・バリザ、ジュン・ジュン・セピリア、リザ・プレスニーヨ、ライナー・ブラス、イベット・ベルナルド、レイ・アルフレッド・リー(聴およびろうの理事)、ラファエル・ドミンゴ、マッキー・キャルベイ、マイラ・メドラーナ(ろう諮問委員会)、ロザーナ・ピラヌエバ、ジェネル・チェン、エムネル・パーマー、デメリン・チャト、ヒルトン・ジョン・エドリアル(クラスタ・コーディネータ)。

チェラーダ氏は「誰もが、寛容、献身、責任そして柔軟な態度を持ちつつ聾者の役に立つという目的を心に、手話学習に対して強い関心を持たねばならない」と述べました。

我々はここに止まりません。聾者の権利擁護の取り組みは続くのです。献身と責任、また仕事に対する価値をもって組織は広がり続けます。共通の見通しと職業意識を持ちながら、すべてのフィリピン手話通訳者はこの国でまた世界で重要な位置を占めます。我々は素晴らしい仕事ができるのです。手の中に分かち合う力があるのです。



2012 欧州学生手話通訳者(ESOSLI)会議

アビゲイル・ハイスター 英語—イギリス手話通訳訓練生



5月17日、第1回 ESOSLI 会議がドイツのツヴィッカウで開催されました。2日間にわたる会議には欧州10ヶ国から160人の聾・聴の学生手話通訳者が集まり100個を超える自家製のケーキが持ち込まれました。

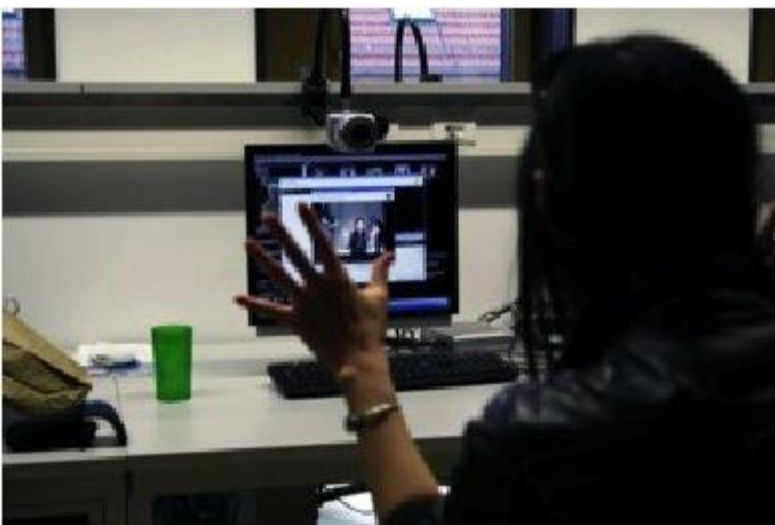
金曜日の朝、ESOSLI 会員の歓迎のもと開会され、ロバート・リー氏とピーター・レベリン—ジョーンズ氏による「脱構築と再構築」という基調報告、欧州手話通訳者フォーラム(EFSLI)会員ルーデス・カリエ氏の挨拶がありました。大会プログラムは多岐にわたる題材が盛りだくさんであった。私が出席したのは、ドイツ手話入門、国際手話、聾通訳者、演劇通訳です(他には、通訳倫理決定、被雇用者あるいは同僚としての通訳者、国境を越えての言語戦略、がありました)。大学や町をめぐるツアー、聖歌隊のパフォーマンス、最終日の夜のパーティーは皆に喜ばれました。大学の様々な課程に心を奪われながらの、この集中した言語的、文化的またプロレベルの国際的な経験に没頭できたのは感動的でした。

土曜日には、学生たちは自国の通訳事情についての報告を求められました。大半の者は 財源、資格取得の方法、各国手話の認知という点での相違を知ろうと共通のテーマのもと大学の課程について話しました。通訳者養成のための実践、たとえばインターンシップ、交換留学制度、特別単位など、に関してお互い多くの学ぶべきことがありました。イギリスからのただ一人の参加者として、イギリスの法廷通訳の枠組みについての通訳者たちの抗議について報告しました。出席者は、イギリスでの後退がもたらす衝撃や国際的な波及効果を痛感しました。様々なプレゼンテーションで出された課題について討論する十分な時間は取れませんでした。が、連帯感が生まれ自由時間に討論を続けることができたのは素晴らしいことでした。大まかに言うと、プレゼンテーションは、各国の通訳者養成課程の基準レベル、認証評価基準、通訳者養成に対する態度、また、職業の将来性についての不均衡、教育の機会の課題などが多岐にわたることを示しました。

日曜日には、大会参加の聾通訳者の刺激的な報告があり、多くの参加者はドイツの聾通訳者養成の水準に感銘を受けました。聾の通訳者に発生する認知過程、あるいは、聾・聴の通訳者間でのチーム通訳を支えるための技術に関してもっと研究をしてほしいという要求がありました。

英語、ドイツ語、ドイツ手話、国際手話、フランス語、アメリカ手話が入り乱れる談話は素晴らしいことでした。それぞれの手話の類似点や相違点を知りおもしろかったです。

ESOSLIの今後は、2013年には会議はないものの、ヨーロッパ各国の支援があれば2014年には大会を開く用意はあります。



上:設備を試してみる.



右:歴史に富んだ小都市ツヴィッカウの聖マリエン教会大聖堂

常に変化するフィンランドの通訳事情についてのある学生の視点

マルコ・コルテサロ(フィンランド)

フィンランドでは1962年以来何らかの形で手話通訳者(SLI)の養成が行われています。2001年からはディアコニア応用科学大学(Diak) (Turkuにキャンパスの1つがあり、私はそこで学んでいます)と、ヒューマック応用科学大学(ヘルシンキとクオピオにキャンパス)が新しい手話通訳者養成の分野を手掛けています。2003年にはすべてのプログラムが高度な職業レベルにまで改訂されましたが内容は多様です。それぞれの大学のカリキュラムに詳しくはありませんが、ディアコニア応用科学大学は最近、カリキュラムを変更し手話通訳の分野での変更が引き起こした様々な仕事に見合うようになりました。

およそ2年前、フィンランド社会保険機構(Kela)はフィンランド全土に通訳のサービスを提供することとしました。以前は、聾者の住む各自治体がそれぞれの予算の中で通訳の提供をすることとなっていました。このため、人口の少ないフィンランドのような国では聾者間で地域的な不公平が発生していました。この改革の主な目的はすべての聾者間にどこに住んでいても平等が広がるようにすることでした。変更以前は、人生のどの段階でも通訳を必要とする障害者すべてに通訳を受ける権利を保障する新法がありました。通訳時間の総計は変更はありませんでした(聾者と言語障害のある人は年間180時間、盲聾者は年間360時間)です。前記の改革は聾者の通訳利用に関して小さいながらも重大な変更をもたらした。現実的には、聾者は特定の通訳事業者を指名することはできなくなり、入札リストに載っている最初の通訳事業者で妥協しなければならなくなるでしょう。

この手話通訳サービスの分野での変更は私たち手話通訳を学ぶ学生にどう影響するのでしょうか。手話通訳にかかわる主体は国の機関なので、すべての事業者は法に則った会社でなければなりません。これにより自由契約(フリーランス)の通訳は存在しなくなります。通訳者は全員事業所に雇われるか自ら事業を興すしかありません。実習先を探す学生は、きちんと申し込み他の応募者との競争しなければならないため、人脈や知り合いの通訳事業者に頼ることはできません。卒業を控えている学生にはすでに影響がでています。国の機関というものは協働する相手機関を選ぶ際は特定の手続きを踏まなくてはなりません。今の場合は手話通訳を提供する会社ということになります。フィンランド社会保険機構(Kela)は事業者に入札参加を呼び掛け、適宜順位を付けました。しかしながらKelaはその気になれば一定の期間入札を留保できます。卒業前の学生の立場からすれば、企業は新たな入札以前には人材募集ができないので、手話通訳学科生は次回の入札まで職がないという危険性もあります。

国内での通訳サービスが進んでいるのにあわせて、言語障害がある人たちは自分たちにも通訳を要求する権利があることに気付きはじめました。前述の通り、Diakは時宜にかなうようカリキュラムを改訂しましたが、私はそのカリキュラムを履修する第1期生です。入学後2年で学生は2つのグループに分かれます。1つは手話通訳者として卒業する学生のグループ、もう1つは言語障害のある人たちの通訳者として卒業する学生のグループです。これは、拡大・代替コミュニケーション(AAC)と手話教授の専門家です。これらの2つのグループは共通の研究を続けますが、中心は選択したものとなります。今まで、さまざまな職業訓練学校が拡大・代替コミュニケーション(AAC)の専門家を輩出してきました。しかし何年かすればDiakがその上級資格をもつ拡大・代替コミュニケーション(AAC)通訳者を社会に送り出すでしょう。これは応用科学大学でしか取得できないこととなります。



WASLI 理事

シエナでの efsli 大会で
(左から) 悦子、スーザン、デブと
セルマン(PC 画面)

もっと知りたい？

英国の聾の手話指導者が3週間ボランティアとしてイラクに滞在。イラク初の通訳者会議にも出席しました。詳細は[こちら](#)。

身近なニュースを世界に発信しましょう。

あなたの地域の最新動向やお知らせ、記事、写真などを WASLI ニュースレターに投稿しましょう。

Eメールの宛先は: newsletter@wasli.org

重要事項

この会報の記事内容がすべて世界手話通訳者協会の考えを表わしているとは限りません。WASLI 会報は、編者が WASLI 理事及び外部からの寄稿者と共に作成しています。WASLI は情報内容の信頼性を保つよう努めています。会報に掲載されているすべての情報を編集する権限は WASLI にあります。掲載内容の正確性や個人意見に関しては、WASLI は一切責任を負いません。出典を明確にしていれば、掲載内容の転載も認めます。WASLI の公式写真の使用許可申請及びメールアドレスの変更申請は secretary@wasli.org まで。

WASLI 理事会

役員:デブ・ラッセル (会長);ホセ・ルイス・プリエバ・パディラ (副会長);アウォイ・パトリック・マイケル (事務局);スーザン・エマーソン (会計)

地域代表: シーナ・ウォルターズ (南洋州・オセアニア); サミュエル・ベグミサ (アフリカ); モニカ・ブンジャビ、梅本悦子 (アジア); セルマン・ホティ (バルカン); ホセ・エドニルソン Jr. (ラテンアメリカ); ナイジェル・ハワード (北アメリカ); イゴール・ボンダレンコ (ロシア・コーカサス・中央アジア); (ヨーロッパ) 調整中

WASLI ボランティア

WASLI ホームページ管理者: ディビッド・ウォルフエンデン

WASLI 会員管理: ロビン・テムコ

WASLI 翻訳コーディネーター: ラファエル・トレビーノ (他ボランティア)

会報編集: アンジェラ・マレイ

会報編集補助: ジョージ・メイジャー

会報校正: パトリック・ガラッソ、アラン・ウェン